

福岡観世会定期能

平成二十九年(第二回)



能 定 てい
狂言 歌 うた

家 か
観世 清和

争 あらそい
野村 万禄

能 熊 くま

坂 さか
替之型
森本 哲郎



大濠公園能楽堂

とき 5月20日(土) 午後1時始
ところ 大濠公園能楽堂
入場券 自由席 7,000円
発売所 大濠公園能楽堂事務所
092-715-2155

定

家

親世 清和

是川 正彦
福王 茂十郎
広谷 和夫

白坂 保行
飯田 清一

森田 徳和

雲林 院クセ
郷 鄂舞アト

今村 宮子
菊本 澄代

地謡

松田美栄子
菊本 美貴
長宗 敦子
多久島法子

仕 舞

歌

争

狂 言

野村 万禄

吉住 講

後見 吉良 博靖

△休憩十分▽

後見

坂口 貴信
木月 孚行

地謡

今村嘉太郎
山口剛一郎
久保誠一郎
今村 一夫

鷹尾 維教
多久島利之
角 寛次朗
今村 嘉伸

熊

坂

替之型

森本 哲郎

福王 知登

能

白坂 保行
幸 正佳

田中 達
相原 一彦

△休憩十分▽

雨 月中念前
花 筐狂
笹之 段
山 姥キリ

仕 舞

坂口 信男
木月 孚行
角 寛次朗
山本 章弘

地謡

小倉康太郎
今村 嘉伸
多久島利之
山口剛一郎

間

吉住 講

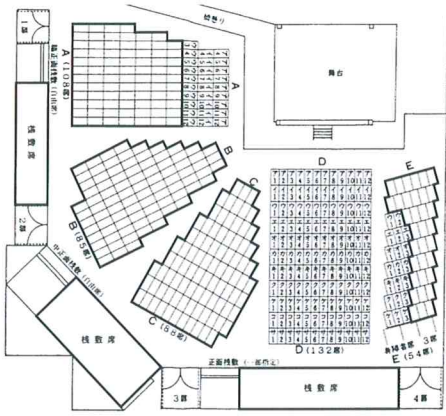
後見

今村 一夫
山本 章弘

地謡

関根 祥丸
井内 政徳
今村嘉太郎
久保誠一郎

武富 昭
鷹尾 維教
坂口 信男
坂口 貴信



※番号が書かれていない席は自由席です ※棧敷席は自由席です

第二回予告

平成29年12月2日(土)午後1時始

能 清 經 多 久 島 利 之

能 文 蔵 野 村 万 禄

能 船 弁 慶 今 村 一 夫

前後之替

定家

折しも降り出した時雨を、近くの庵に入り凌いだ僧は、現れた里女により、そこが藤原定家卿の時雨亭たと知りませす。更に女は式子内親王の墓へ案内し、歌人定家と内親王の目目を忍ぶ恋について語りませす。死後も尚、激しく恋うる定家の執心に苦しむ内親王の霊は、読経の功德に感謝し、僧に報恩の舞を舞います。しかしそれも束の間、もとの墓へと入っていきますと、再び葛はまとわりつき、墓を覆いつくすのでした。定家の執着の表れである葛が巻き付いた作り物の塚(墓)には、二人の重く強い思いが息づいているようです。

歌争

ある日、新しく作られた庭に芍薬を見つけ、「難波津に：：」と詠むと、その引き詠みが間違っていると笑われてしまします。続いて野遊びへ。そこで土筆を見つけた一句。お互いに椰揄しあう内に、以前に相撲を取った事まで蒸し返され、もう一度勝負する事に。さて如何なりましようか。

熊坂・替之型

東国行脚に向かう僧が、美濃国熊坂で呼び止められ、今日が命日の者のために回向を望まれます。案内された庵室には、仏像は無いのに武具が沢山置いてあります。この辺りには山賊等が出没するので、そのため備えであると話し、「お休みあれやお僧達」と言い残して去って行きました。ふと気付くと、草庵は消え、僧はただの草の原に居るのでした。出会った者から、この地で討たれた大泥棒熊坂長範のことを聞いた僧は、供養をしてやります。するとそこへ長範の霊が現れ、牛若丸とのやり取りなどの逸話を、派手に語り始めます。替之型の小書により、長範と僧との問答には床几を使わず先ず下居し、その後立語りを続けたり、長刀を振りながら橋掛かりも存分に使う、より縦横無尽な動きをいたします。